

研究計画

1 研究主題

「考えの形成」を支える指導の工夫
～読み取るための活動と学び合いを通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的な課題から

新学習指導要領は、小学校は2020年から全面実施となり、今年2年目を迎えた。

現状としては、今までの学習指導要領等に基づく取り組みの成果として、国内外の学力調査の結果によれば改善傾向にある。一方、課題として

- ・判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること（社会への参画）
- ・情報化の進展に伴う読解力の低下
- ・豊かな心や人間性を育む子どもたちの体験活動の不足

などが挙げられている。また、「教科書の文章を読み解けていない」との調査結果もあり、「子どもたちが情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることには依然として課題が指摘されている」（中教審答申）という現状もある。

こうしたことから、新学習指導要領では、次の6点に沿った枠組みが作られた。

- ①「何ができるようになるか」 ②「何を学ぶか」 ③「どのように学ぶか」
- ④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」 ⑤「何が身に付いたか」
- ⑥「実施するために何が必要か」 である。

この中でも、子どもたちが①「何ができるようになるか」を重視し、各教科等の指導に当たっては、どのような資質・能力を目指すのかを明確にするとともに、次の3点が偏りなく実現できるようにすることが示された。

- ・知識及び技能が習得されるようにすること。
- ・思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ・学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

また、③「どのように学ぶか」では、「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかといった学びの質に着目した授業改善の取り組みが期待されている。

(2) 学校教育目標から

本校では、「知・徳・体の調和のとれた心豊かなたくましい人間性の育成を目指して、個性や創造力の伸長を図り、社会性を培い、主体的に実践する児童を育成する」という目標のもと「すすんで学習する子ども」「心優しく思いやりのある子ども」「きまりを守り責任を果たす子ども」「元気に運動する

子ども」という4つの目指す児童の姿を掲げ、その具現化に努力している。

一つ目の「すすんで学習する子ども」を育成するために、本年度は「知識・技能の確実な習得と思考力・判断力、表現力の育成」を重点目標としている。どの教科の学習を取り上げても、とりわけ、文章で書かれた内容を理解し、考えを形成し、それを表現していくには、言語の能力が大いに必要になってくる。その言語を直接の学習対象とする国語科の指導を研究し、児童の言語能力を向上させていくことは、上記の重点目標を達成していくうえで重要なことである。

(3) 子どもの実態から

本校の子どもたちは、好奇心が旺盛な子が多く、いろいろなことに興味・関心をもって取り組む姿が多く見られる。明るく活発で子どもらしい活力にあふれており、友達と遊んだり活動したりすることが大好きである。しかし、物事を掘り下げて考えることや、興味・関心にこだわらずに幅広く知識や技能を身に付けようとする気持ち、将来の夢を描いて今できることについて努力しようとする心に乏しい傾向が見られる。

また、語彙が乏しく、書かれていることの意味が理解できないため、国語科に限らず、算数科の文章問題や社会科の事象の理解においても、自力での解釈が難しい様子が見られている。また、言語を使って、自分の思いや考えを相手にわかるように表現できないため、授業の中での伝え合いがスムーズにできず、深まらない様子が見られる。さらに、生活においても自分の置かれた立場をうまく説明することができず、トラブルの回避を未然に防ぐことができない様子が見られる。

(4) これまでの研究の成果と課題から

本校では平成26年度より令和元年度まで国語科と算数科、理科並びに特別支援教育を研究教科とし、「自ら学び、考える力を伸ばす授業の創造～学ぶ喜びを味わわせる 子ども主体の学び合いを通して～」のテーマで研究に取り組んできた。そして、次のような成果が見られた。

- 言語活動の設定により、問いを膨らませることができ、学習意欲の向上が図られた。
- 学び合いが自然とできるようになり、自分の考えを伝達できるようになってきた。
- 相手の考えに耳を傾け、共通点や相違点に目を向け、それをもとにさらに発言できるようになってきた。
- 学級づくりを土台にし、発問の工夫をすることで、自信をもって発言することができる児童が増えた。
- 児童は学びを再構築し、自分の言葉で書く力がついてきた。

しかし、児童の思考力を育てることにはつながったと考えられるが、学力的にみると「思考力、判断力、表現力等」の伸び悩みを示す結果となった。また、どれだけまとめの時間を充実できるか、また、家庭学習とどのように関連を図るかは大きな課題であった。このことから、学んだことを自覚させ、定着させる面において強化していく必要があると考え、令和2年度からは現在の研究主題のもとに研究を進めている。1年次の研究では、次のような成果が見られた。

- 児童と共に、学習の目標をはっきりとさせた学習計画を立てたことで、単元全体の見通しを教師も児童も持つことができた。
- 家庭学習であらかじめ自分の考えを持たせておいたことで、意見交流への意欲を高めることができた。授業中の話合いの時間を確保できる点もよい。
- 友達と意見を交流させる前に、自分の考えを持たせたことにより、その後の自分自身の考えの変化を自覚させることができた。
- 写真や映像、本、具体物、動作化などを用いて教材のイメージ化を図ったことにより、叙述についての深い理解につなげることができた。
- 教材文の全文を掲示、あるいは全文のワークシートを使用することで叙述を基にした深みのある話合いができた。
- 視点の整理と手立ての整理ができた。

こうした成果がある一方で、課題としてはっきりしてきたことは、児童が教材あるいは学んだことを自分の生活や経験と結び付けて考えることができるようにしていくには、さらなる努力が必要であるということである。また、その単元において、最終的に何ができるようになるのかを常に念頭において指導することは簡単ではなく、教材そのものに頼りすぎる傾向がある。

こうしたことから、今年度も本主題の下に研究を進めていくことにした。

3 研究の構想

(1) 研究主題のとらえ方

「考えの形成」を支える指導の工夫 ～読み取るための活動と学び合いを通して～

考えの形成

とは、自分の感想や考えをもつことである。

「読むこと」において「考えの形成」とは、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想を持ったり考えをまとめたりしていくことである。この学習過程には次のような位置づけと指導事項がある。

[思考力, 判断力, 表現力等] 「C 読むこと」の指導事項

		第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
構造と内容の把握	説明的な文章	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら, 内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら, 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて, 叙述を基に捉えること。	事実と感想, 意見などとの関係を叙述を基に押さえ, 文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	文学的な文章	場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉えること。	登場人物の行動や気持ちなどについて, 叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情などについて, 描写を基に捉えること。
精査・解釈	説明的な文章	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して, 中心となる語や文を見つけて要約すること。	目的に応じて, 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり, 論の進め方について考えたりすること。
	文学的な文章	場面の様子に着目して, 登場人物の行動を具体的に想像すること。	登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりすること。
考えの形成	オ	文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて, 自分の考えをまとめること。
共有	カ	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し, 一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し, 自分の考えを広げること。

また, 話したり聞いたり書いたり読んだりするために共通して必要となる「知識及び技能」として, 以下の事項ができることも, 文章を理解することにつながる。

[知識及び技能] (2) 情報の扱い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
情報と情報との関係	共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	情報と情報との関係づけの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

読み取るための活動

とは, 国語科の「読むこと」の領域において行う言語活動を指し, その中でも次の学習活動が中心になるととらえる。

- ・ 学習過程の中の「構造と内容の把握」「精査・解釈」に含まれる言語活動
- ・ 情報の扱い方に関する事項「情報と情報との関係」「情報の整理」に含まれる学習活動

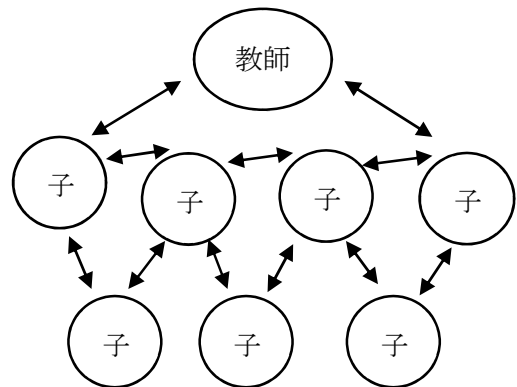
指導に当たっては, 児童の発達や学習の状況に応じて言語活動を設定していく。

学び合い

とは, 「子どもたちが, 子どもの立場で学習の在り方を考え, 教え合ったり, 聞き合ったり, 話し合ったりしながら学習すること」を最終目標に, 教師主導の授業形態から, 少しでも子どもたち同士が関わり合えるような学びに質的に変換していく「子ども主体の学び合い」と捉える。

授業を組織するに当たっては, 教師と子どもたちのピンポン的な話し合いでは

なく, 子どもたちがパスをつないでゴール(本時のねらい)に迫るサッカーのイメージをもって創る。本校が, 前年度までの研究の中で実践してきたことであり, これからもその実現に努力していく。イメージを図に表すと右のようになる。



学び合いの姿を段階で考えると次のようになる。

1. 自分の考えを相手に伝える。(互いの理解の深まり)・・・**伝え合いの段階**
2. 教師主導による「予想」「繰り返しの再生」などの活動ができる。
3. 分からない児童に教えることができる。(助け合い型の学び合い)・・・**教え合いの段階**
 - 説明できる子は、思考・表現の高まり
 - 説明を聞く子は、理解のきっかけ
4. グループで考えをまとめることができる。(思考の深まり)・・・**話し合いの段階①**
5. 予習してきたことを生かした話し合いができる。(思考の深まり)・・・**話し合いの段階②**
6. グループの話し合いの中で考えを練り上げていく。(思考の深まり)・・・**話し合いの段階③**
7. 子ども主体による学び合いができる。・・・**課題解決型の学び合い**

(2) 目指す子どもの姿

自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に、すでに持っている知識や体験と結びつけて考え、より広くより深く考えたり、あるいは自ら修正したりして表現する子ども

(3) 研究仮説

国語科の主に「読むこと」において、効果的な言語活動と学習課題を設定し、感想や考えを持つに至るまでの理解を確かなものにすれば、子どもは自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に、すでに持っている知識や体験と結びつけて考え、より広くより深く考えたり、あるいは自ら修正したりして表現するであろう。

(4) 研究の視点および内容

1年次は、視点を「効果的な言語活動と学習課題の設定」「考えを形成するに至るまでの理解」「感想や考えの表出」の3つとして研究を進めたが、授業実践を通して、2つの視点到整理できることが分かった。伴って、手立ても整理し、本年度は2つの視点で目指す子どもの姿に迫ることにした。

<視点1:効果的な言語活動と学習課題の設定>

児童がより主体的に目的意識をもって文章を読み、自分の考えを持つことができるようにするために言語活動を設定するが、それを効果的なものにしていく視点。

<視点2:感想や考えの表出>

授業の展開部分でいろいろ出される考えそのもの。あるいは、いろいろ話し合った後で、結局自分はどう考えたか、考えの質を高められたか、という視点。振り返りの中で出される感想も含めて考える。評価に直接つながる部分。

本時だけでなく、前時までの学習状況が大きく関係してくると思われる。

		低学年	中学年	高学年
視点1 効果的な言語活動と 学習課題の設定	目指す児童像	学習課題に向かって喜んで考えようとする子ども	自分なりの考えを持って、学習課題に向かう子ども	学習の見通しを持つことができる子ども
	手立て	① 単元全体の見通しの意識化 ② 学習課題の設定の工夫（自分と教材とのかかわりを深める問いづくりなど） ③ 家庭学習との関連		
視点2 感想や考えの表出	目指す児童像	文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ子ども	友達の考えを取り入れながら、自分の考えを話したり、書いたりすることができる子ども	友達の意見と比べたり、取り入れたりして考えを深め、それを表現する子ども
	手立て	① 自分の立場の明確化（ワークシートの工夫、初めの考えと交流後の考えの変容を見るなど） ② 教材のイメージ化を図る工夫（動作化、場面絵、具体物、体験談 図や表など） ③ 叙述や描写への着目（発問の吟味、大事な言葉や文章にサイドラインを引くなど） ④ 考えの表出の場の設定（ペア、小集団での話し合い など） ⑤ 板書の工夫（ネームプレートの活用、ポイントが分かるように、まとめにつながるように など） ⑥ 意図的指名		

4 研究方法

(1) 研究の方針

- ① 新学習指導要領を踏まえ、育成する3つの資質・能力や指導事項を、教師自身が意識して取り組むことができるよう研修に努め、指導案の中にも明示する。
- ② 学力向上に関する会津教育事務所からの指導の重点、及び「喜多方市の学校教育～指導の重点～」との関連を確かめ、これらと本校の研究の方向性を共有する。
- ③ 学年の実態や発達段階を考慮しながら、教師主導から子ども主体の学び合いができるような手立てを模索し、実践しながら授業の質的改善を図る。（サッカー型の授業：前年度からの継続）
- ④ 子ども主体の学び合いができるようにするため、「ほおの木っ子学び合いのための基本」「ほおの木っ子学び合いの姿」は、前年度までの研究の成果として今年度も指導に生かしていく。なお、「聞き方・話し方」「第二小学校 学びとる子」も継続して指導していく。

- ⑤ 一人1回の国語科の授業研究を実践する。

教師は、学年単位で共に教材研究を行い、指導案を作成するなどし、学年内での研究を進める。学年内で先に行った授業の反省を後の授業に生かすようにする。

◇ 研究公開： 国語科2授業

事前研究会：指導案検討を下学年と上学年の二手に分かれて行う。

事後研究会：全員+（校外参観者）+指導者で行う。

◇ 校内研究授業：上記以外の研究授業

事前研究会：指導案検討を低・中・高学年ブロックごとに行う。

事後研究会：同学年のペアが終了した段階で上記ブロックごとに行う。

- ⑥ 「研究公開授業」の事後研究会は、グループでのKJ法を取り入れた協議会とする。

- ⑦ 事後研究会で出された反省点をもとに、授業者は日々の授業の改善を図る。

- ⑧ 文章読解力をつけるための継続的な取り組みを行う。

例 ・「喜多方市の学校教育」の23・24ページ（資料6 読解力向上に向けての取組について）を参照し、リーディングスキル確認問題に取り組む。

・授業において、「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すのか発問する。

・授業において、言葉の意味理解ができているか、主語と述語がどう係り受けしているか発問する。時には、選択肢を板書して児童生徒の理解度を把握する。

・文章の視写を行う。

- ⑨ 読書活動を推進する。

- ⑩ 全学級「hyperQ-U」を実施し、研修を通して結果を分析し、対応策を実践していくことで、学びの集団の基礎となる学級力の向上を図る。

- ⑪ 学級のめあてを学級力の向上に結び付け、学級力を可視化することにより、学級のよさを互いに確かめたり改善策を考えたりする。（学級力レーダーチャート）

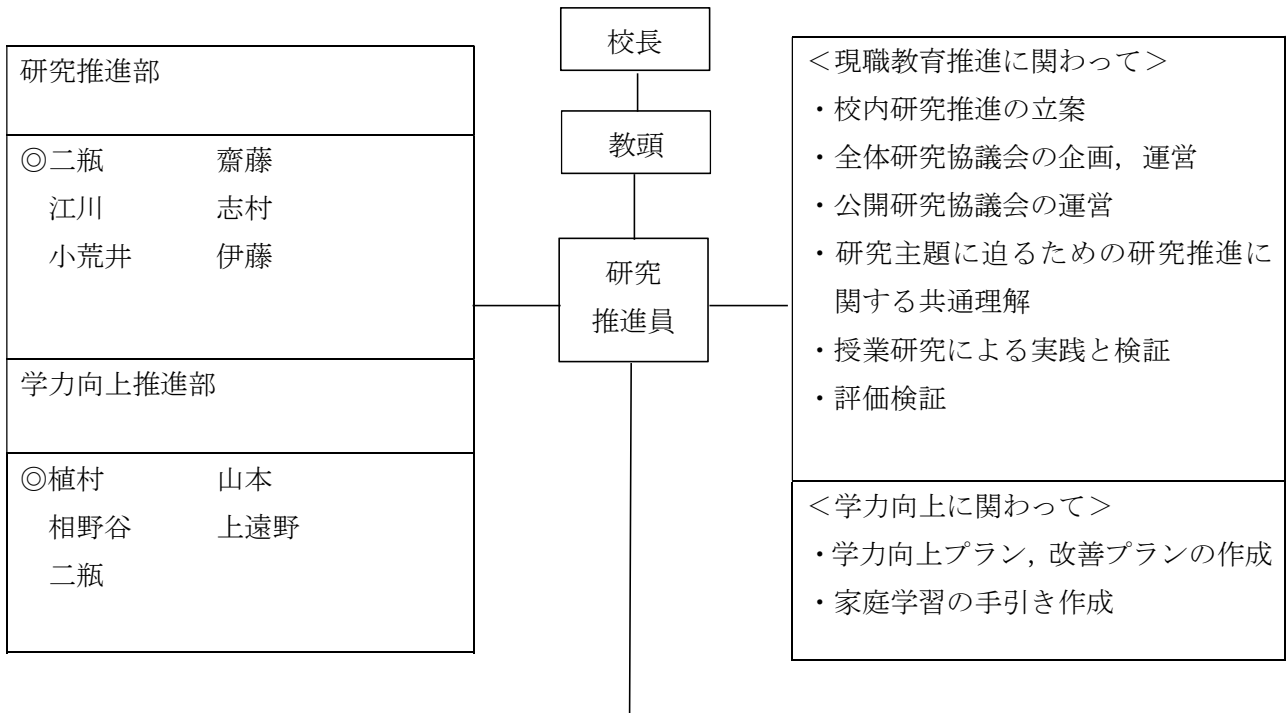
- ⑫ 「ほめ言葉のシャワー」に取り組むことで、学習集団の基礎作りを行う。

「ほめ言葉のシャワー」の基本スタイル

「ほめ言葉のシャワー」とは、一人一人のよいところをクラスみんなで見付け、その日の主人公の子どもが、一日の最後に教壇に上がり、クラスのみんなから「ほめ言葉のシャワー」を浴びるといふもの。

毎日行うことで、子どもたち一人一人が自信を持ち、集団生活の場である学級には安心感が広がることを期待される。また、積極型の人間が育ち、秩序のある絆の強い人間関係が築かれることを期待し、学び合う授業づくりの基盤としての在り方を工夫し続ける。

5 研究組織



低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック		
◎齋藤 清水 植村 小澤 二瓶 長澤 林	◎江川 相野谷 志村 上遠野 遠藤 薄 山内	◎松本 伊藤 小荒井 山本 高橋 鈴木		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇アンケートの検討 ◇教材研究 ◇授業の方向性の共通理解 </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇指導案の検討 ◇実践研究の積み重ねと資料の累積 ◇国語の授業における有効な指導の推進 </td> </tr> </table>			<ul style="list-style-type: none"> ◇アンケートの検討 ◇教材研究 ◇授業の方向性の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◇指導案の検討 ◇実践研究の積み重ねと資料の累積 ◇国語の授業における有効な指導の推進
<ul style="list-style-type: none"> ◇アンケートの検討 ◇教材研究 ◇授業の方向性の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◇指導案の検討 ◇実践研究の積み重ねと資料の累積 ◇国語の授業における有効な指導の推進 			

学力調査部
◎植村 山本 相野谷 上遠野 伊藤 小澤 林 長澤 薄
◇学力テスト・単元テストの結果の分析と考察 ◇二小スタイルの作成・取り組み状況集約と考察

意識調査部
◎鈴木 齋藤 清水 二瓶 江川 志村 小荒井 松本 高橋 遠藤 山内
◇意識調査の作成 ◇結果の分析と考察 ◇文献・資料購入

6 研究計画

月 日	内 容
4月21日(水)	第1回現職教育全体会 ・研究授業時期について
5月18日(火)	現職教育委員会 第2回現職教育全体会に向けて
5月19日(水)	第2回現職教育全体会 ・研究計画 ・指導案形式
6月	意識調査部 ・アンケート内容の検討及び第1回意識調査の実施
6月16日(水)	低学年ブロック事前研究会(第2学年の授業について)
6月28日(月)	指導訪問
6月29日(火)	2年1組研究授業 授業者:小澤百合子
6月30日(水)	2年2組研究授業 授業者:二瓶尚子 低学年ブロック事後研究会(第2学年の授業について)
6月14日(水)	あすなろ学級研究授業 授業者:林 啓子
6月16日(金)	なかよし学級研究授業 授業者:長澤美和
7月30日(金)	公開研究授業第1次案内送付
8月19日(木)	公開研究授業事前研究会(下学年・上学年ブロックに分かれて)
9月 1日(水)	公開研究授業第2次案内送付
9月14日(火)	低学年ブロック事前研究会(第1学年の授業について)
9月15日(水)	高学年ブロック事前研究会(第5学年の授業について)
9月22日(水)	1年3組研究授業 授業者:植村晶子
9月24日(金)	5年1組研究授業 授業者:小荒井俊人
9月27日(月)	1年2組研究授業 授業者:清水菜々依
9月28日(火)	5年2組研究授業 授業者:山本彩香菜
9月29日(水)	高学年ブロック事後研究会(第5学年の授業について)
10月 1日(金)	公開研究授業 1年1組 授業者:齋藤典子 4年2組 授業者:上遠野雄喜
10月20日(水)	高学年ブロック事前研究会(第6学年の授業について)
10月27日(水)	中学年ブロック事前研究会(第3学年の授業について)
11月10日(水)	6年1組研究授業 授業者:松本貴子
11月12日(金)	6年2組研究授業 授業者:伊藤康臣 高学年ブロック事後研究会(第6学年の授業について)
11月24日(水)	3年1組研究授業 授業者:江川洋介 第3回現職教育研究会 ・研究のまとめに向けて
11月26日(金)	3年2組研究授業 授業者:相野谷祐太 中学年ブロック事後研究会(第3学年の授業について)
12月	第2回意識調査の実施
2月 9日(水)	第4回現職教育全体会 ・次年度研究の見通し

7 研究構想図

<研究主題>

「考えの形成」を支える指導の工夫
～読み取るための活動と学び合いを通して～

<目指す子どもの姿>

自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に、すでに持っている知識や体験と結びつけて考え、より広くより深く考えたり、あるいは自ら修正したりして表現する子ども



<研究仮説>

国語科の主に「読むこと」において、効果的な言語活動と学習課題を設定し、感想や考えを持つに至るまでの理解を確かなものにすれば、子どもは自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に、すでに持っている知識や体験と結びつけて考え、より広くより深く考えたり、あるいは自ら修正したりして表現するであろう。

